

# 「国内クラウド需要動向調査（2021年版）」のご案内

調査概要・弊社ご紹介

---

2021.9.3

Confidential

## 2020年度版の主な実績

- 2013年から毎年春から継続実施。
- 多くの事業者から高い評価を頂いており、本調査レポートをさまざまな用途で利用頂いております。

### 【2020年度の販売実績】

クライアント	主な用途
国内大手クラウドベンダ A社	クラウド事業の戦略策定に活用
大手SIer B社	クラウドの構築運用事業に関する企画・提案資料として活用
研究機関 C社	研究員向けの参考資料として活用
ネットワーク事業者 D社	自社サービス拡販のためのセミナー資料として活用

その他、販売実績多数。

# 2020年度版の主な実績

- 同調査の結果は多くのメディアから取り上げられています。

## IaaS導入企業の過半数がAWS採用 MM総研の国内クラウド市場調査

© 2020年06月19日 15時30分 公開

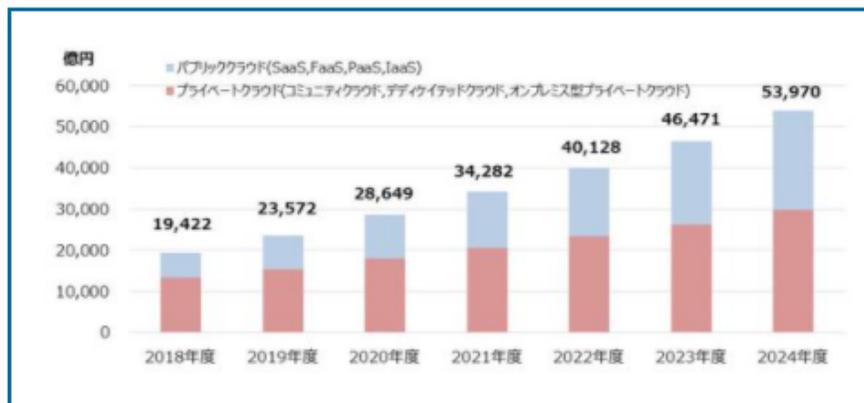
[ITmedia]



※ 年収500万円以上、自社プロダクトを運営する企業の求人多数

※ 銀行機能の「部品化」でバックオフィス業務負担を大幅減！

調査会社のMM総研が6月18日に発表した国内クラウドサービス市場動向によると、2019年度のクラウドサービスの市場規模は2兆3572億円で、前年度比21.4%増の大幅成長だった。IaaS導入企業のうち過半数がAWSを採用しているという結果も出た。



国内企業3万9115社の情報システム担当者を対象にWebアンケートを実施した。従業員規模を問わず、70%超の企業が新規システム構築にクラウドを利用していることが分かった。特に、従業員1000人以上の大企業では87.2%がクラウドを利用している。

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2006/19/news111.html>

## 【本レポートの特徴】

クラウド利用を前提とするシステム開発の普及と、今後のDXの本格化を見越し、調査項目を大幅にリニューアル。

### ●主なリニューアル内容

1. クラウドサービスで最も注目されるPaaS/IaaS市場を重点的に調査。
2. PaaS/IaaSの利用対象を5つのシステム（※）に分類し、各システムに対する利用実態を整理。  
※ 基幹系財務会計システム、基幹系人事給与システム、基幹系生産・販売・調達システム、情報系システム、顧客へのサービス提供基盤、の5つ。
3. PaaS/IaaSの利用実態のほか、計画～設計・構築～保守・運用など活用段階ごとに掘り下げを実施。

## 【本レポートの主な利用シーン】

- ・ クラウドベンダで事業企画に携わっており、自社のサービス戦略を立案するためのバックデータが欲しい
- ・ PaaS/IaaSを利用したシステム開発の営業を担当しており、顧客が開発時に抱える課題を網羅的に把握して効果的な提案を実施したい
- ・ PaaS/IaaSの運用サービスを開発しており、自社の強みを取り入れたサービスメニューを作りたい
- ・ クラウド利用時の課題を把握して、クラウド利用者を支援するサービスをユーザーに訴求したい

など さまざまな利用シーンで活用可能。

## 【調査対象サービス】

### ■パブリッククラウド（サービスモデル別）

SaaS (Software as a Service) / FaaS(Function as a Service)/ PaaS(Platform as a Service)  
/IaaS(Infrastructure as a Service)

### ■プライベートクラウド（実装・配置モデル別）

コミュニティクラウド / デディケイテッドクラウド / オンプレミス型プライベートクラウド

※ このほか、ベアメタルクラウド（ベアメタルサーバー）やホスティングサービス（専用ホスティング・共用ホスティング・VPS）なども同時に調査を実施。

## 【2021年度版調査概要】

回答件数：予備調査（クラウドサービスの認知、利用・検討状況などについて）：28,868社

※情報システム、ネットワークの管理・運用担当者または決裁・選定担当者

本調査（クラウドサービスの利用実態、投資動向など）：1,182社

※クラウドサービスの導入者・導入検討者

調査方法：Webアンケート調査

調査期間：【アンケート調査期間】2021年6月18日～6月25日

分析内容：■クラウドサービスの市場規模・予測(2019年度～2025年度)

■クラウドサービス、特にPaaS/IaaSにおける利用・検討サービス、選定ポイント、導入目的

■クラウドサービス、特にPaaS/IaaSの利用用途

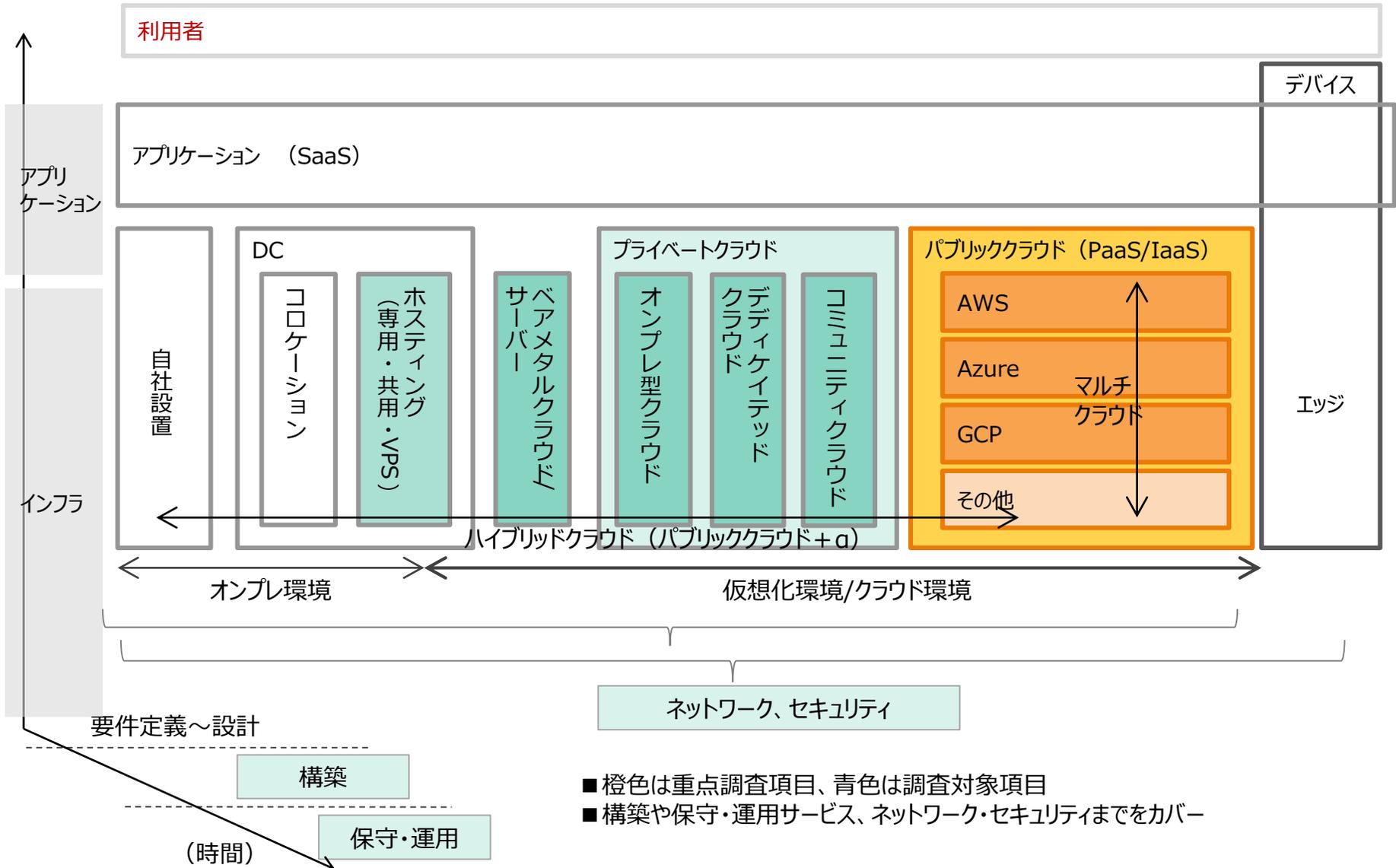
■PaaS/IaaSの設計・構築、運用時の課題

■企業におけるクラウドサービスおよびICTへの投資動向 など

発売日：2021年9月3日

# 2021年版の特徴

【調査対象】 …クラウドサービスに関する主要項目を網羅したレポート



# 2021年版の特徴

**【PaaS/IaaS調査の分析項目】** …各システムでのPaaS/IaaS利用に関するクラウドジャーニーに対応するレポート構成対象システムを5種類（下記①～⑤）に分類し、使い方や段階別の課題を個別に可視化。

システムの分類		導入実態	クラウドジャーニー		
			導入計画・サービス選定	導入・設計・構築	運用・保守
基幹系システム (うち 業種問わず利用するもの)	① 財務会計システム				
	② 人事給与システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウドサービスの検討・利用状況</li> <li>クラウドサービスの導入状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>システム構築の考え方</li> </ul>		
基幹系システム (うち 業種固有のもの)	③ 生産・販売・調達系システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>システム構築の考え方</li> <li>利用中のクラウドサービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PaaS/IaaS導入で解決したい課題</li> <li>PaaS/IaaS導入における主な相談相手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PaaS/IaaSの導入・設計・構築時の課題</li> <li>PaaS/IaaSの構築事業者と選定時に重視したこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PaaS/IaaSの運用実態</li> <li>PaaS/IaaSの運用事業者と選定時に重視したこと</li> </ul>
④ 情報系システム (コミュニケーションシステムなど)		<ul style="list-style-type: none"> <li>PaaS/IaaSの利用用途と使い分け</li> <li>利用しない理由</li> <li>クラウドサービスの利用額・利用見通し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PaaS/IaaSへの移行パターン</li> <li>PaaS/IaaSの機能重要度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入しているネットワークサービス</li> <li>導入しているセキュリティサービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運用時の課題</li> </ul>
⑤ 顧客に提供するサービス基盤 (自社サービスを提供する基盤)		<ul style="list-style-type: none"> <li>全社のICT投資額・投資見通し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウドサービス事業者のイメージ</li> </ul>		
⑥ その他 (※ 一部の調査項目で掲載)					

## 【レポート目次】 …全191ページ（※オプション付き 全218ページ）

### I. 調査概要

1. 調査目的
2. 調査手法・形式
3. 調査機関（Webアンケート実施期間）
4. 調査対象者・属性

- §4 PaaS/IaaSの導入・設計・構築
- 13.PaaS/IaaSの導入・設計・構築時の課題
- 14.PaaS/IaaSの構築事業者と選定時に重視したこと
- 15.導入しているネットワークサービス
- 16.導入しているセキュリティサービス

### II. 調査結果サマリー

1. 市場規模
2. 概況・トピックス

- §5 PaaS/IaaSの運用
- 17.PaaS/IaaSの運用実態
- 18.PaaS/IaaSの運用事業者と選定時に重視したこと
- 19.自社運用時の課題

### III. 国内クラウドサービス需要動向の調査結果

#### §1 クラウドサービスの利用実態

1. クラウドサービスの検討・利用状況
2. クラウドサービスの導入状況
3. システム構築の考え方
4. 利用しているクラウドサービス

- §6 クラウドサービスおよびICTへの投資状況
- 20.クラウドサービスの利用額・利用見通し
- 21.全社のICT投資額・投資見通し

#### §2 PaaS/IaaSの利用実態

5. PaaSの利用用途と使い分け
6. IaaSの利用用途と使い分け
7. PaaS/IaaSを利用しない理由

### IV. 国内ホスティングサービス需要動向の調査結果（※オプション）

#### §7 ホスティングサービスの需要動向

- 22.ホスティングサービスの利用・検討状況
- 23.ホスティングサービスの利用用途
- 24.ホスティングサービスの利用サービスオプション
- 25.ホスティングサービスの申し込み状況
- 26.ホスティングサービスの年間利用額

#### §3 PaaS/IaaSの導入計画・サービス選定

8. PaaS/IaaS導入で解決したい課題
9. PaaS/IaaS導入における主な相談相手
- 10.PaaS/IaaSの移行パターン
- 11.PaaS/IaaSの機能の重要度
- 12.クラウドサービス事業者のイメージ

# 主な調査結果（市場規模）

---

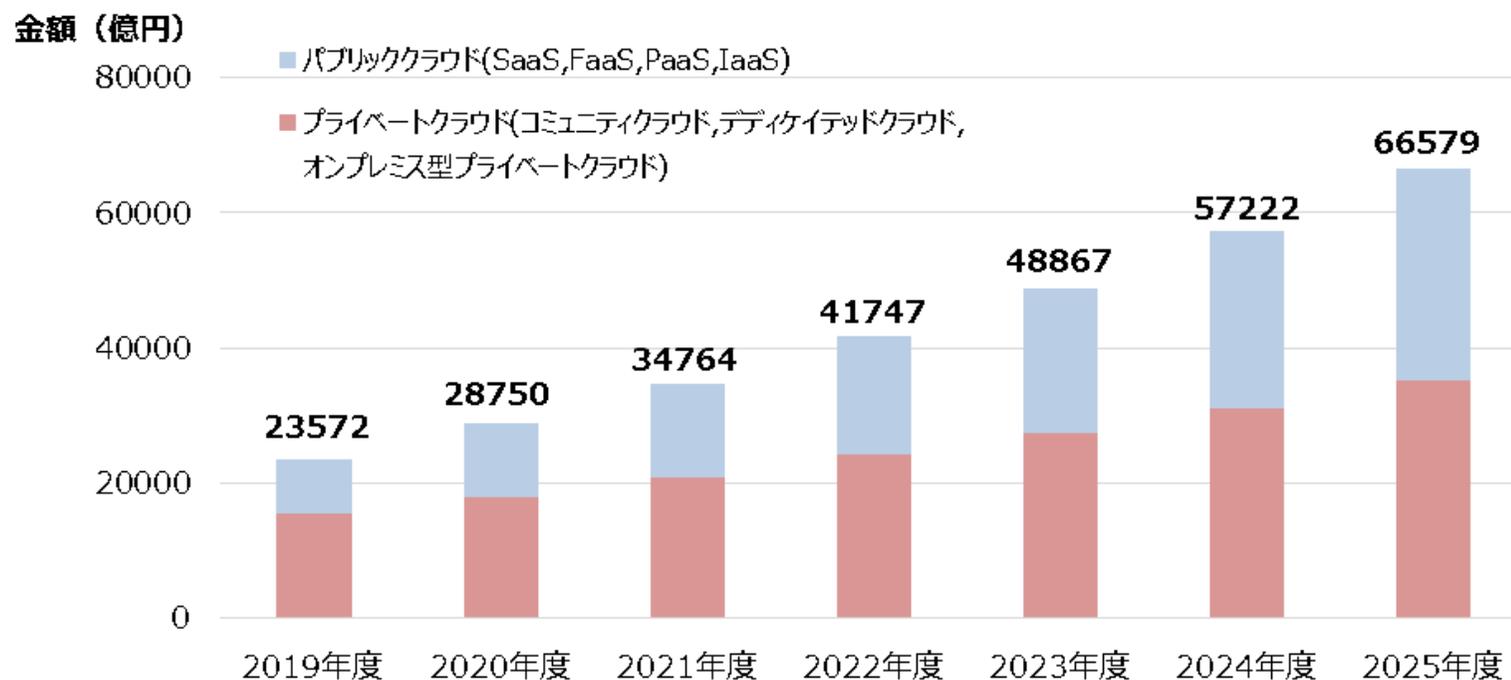
## 【主な調査結果】

- 2020年度の国内クラウドサービス市場全体の規模は2兆8750億円。2025年度には6兆6679億円と予測。
- 2020年度のパブリッククラウド市場は初めて1兆円を突破。
- AWS・Azure・GCPの利用が中心。AWSはIaaS利用者全体の40.3%が利用。
- IaaSのブランド別利用率は、AWSは顧客提供基盤のとき61.7%だが、基幹系人事給与システムでは33.0%まで減少。企業活動への中核を担うサービスへの浸透に課題がみられる。
- 約3分の2の企業がPaaS/IaaS運用・保守業務の全部もしくは一部を外注している。
- 自社単独でPaaS/IaaSを運用するときの課題として多いものは「ノウハウの不足」など。
- クラウドサービスの利用拡大に伴い、約11%の企業がネットワークおよびセキュリティに対する支出額を10%以上増やしたと回答。
- リモートワークなどを想定したセキュリティ対策の進展が見込まれる。

# 主な調査結果（市場規模）

## 【クラウドサービスの市場規模・今後5年間の予測】

- 2020年度の国内クラウドサービス市場全体の規模は2兆8750億円。
- 2025年度には、6兆6679億円と予測。2020年から2025年度までの5期のCAGRは18.3%となる。

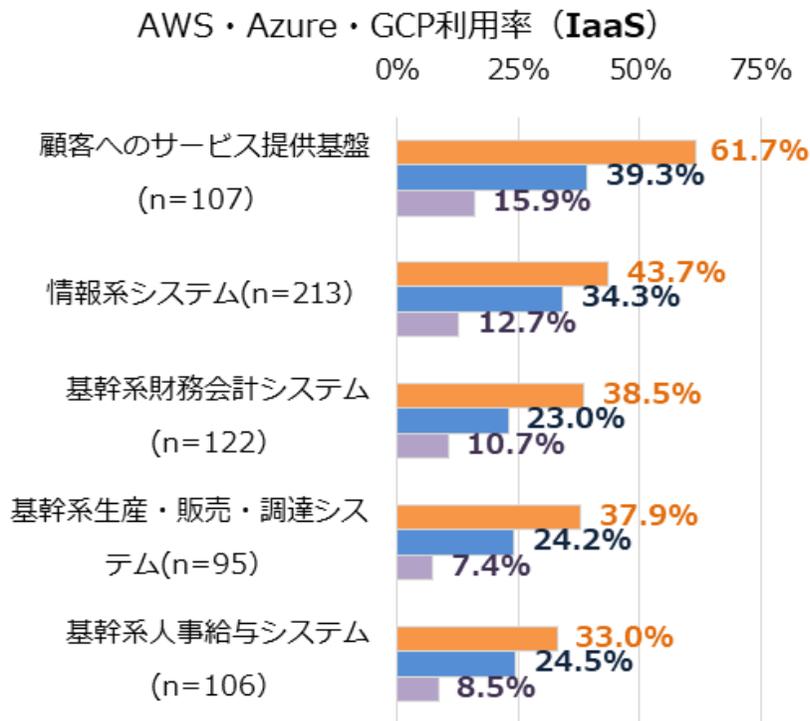
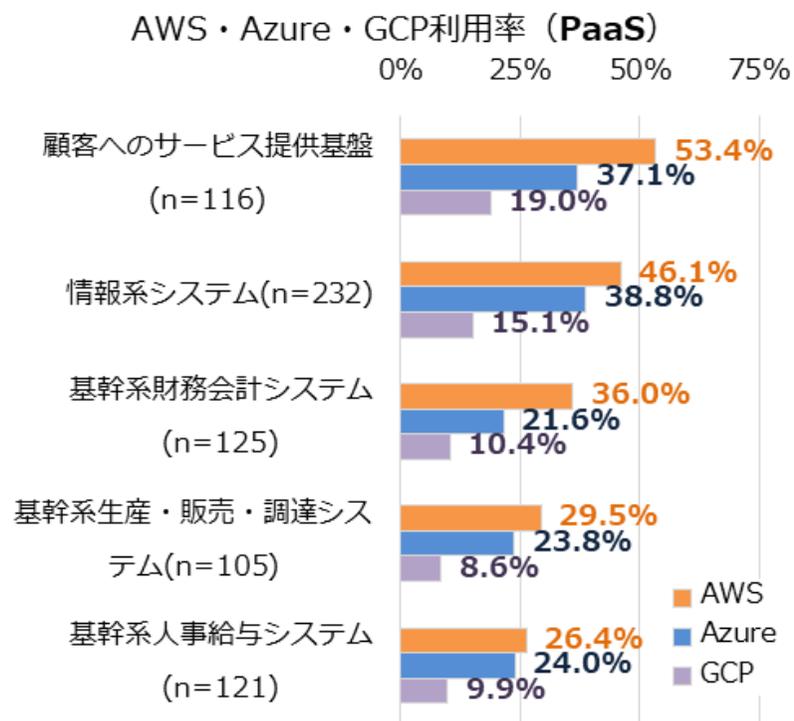


※ 2021年度以降はMM総研予測値

# 主な調査結果（システム別の利用状況比較）

## 【主要クラウドベンダ3社のシステム別利用状況比較】

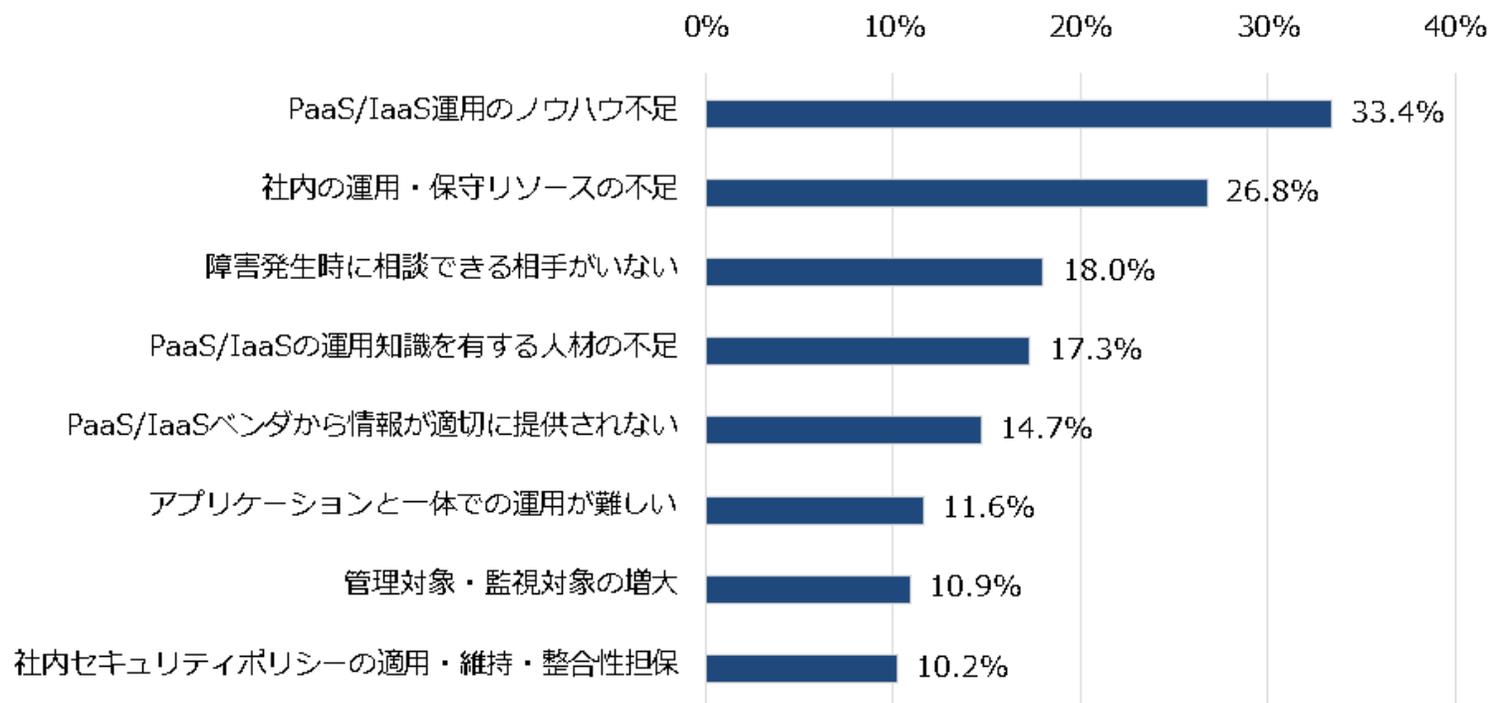
- PaaS利用者全体のうち、AWSを使用しているとの回答は37.4%、Azureは30.6%、GCPは15.9%という結果。IaaS利用者全体ではAWSが40.3%、Azureが26.3%、GCPが13.7%という結果。
- システムを5種類に分け、3社サービスの利用率を比較すると、「顧客へのサービス提供基盤」での利用率が最も高い。



## 主な調査結果（クラウドの運用課題）

### 【自社でクラウドを運用するときの企業が抱える課題（n=422）】

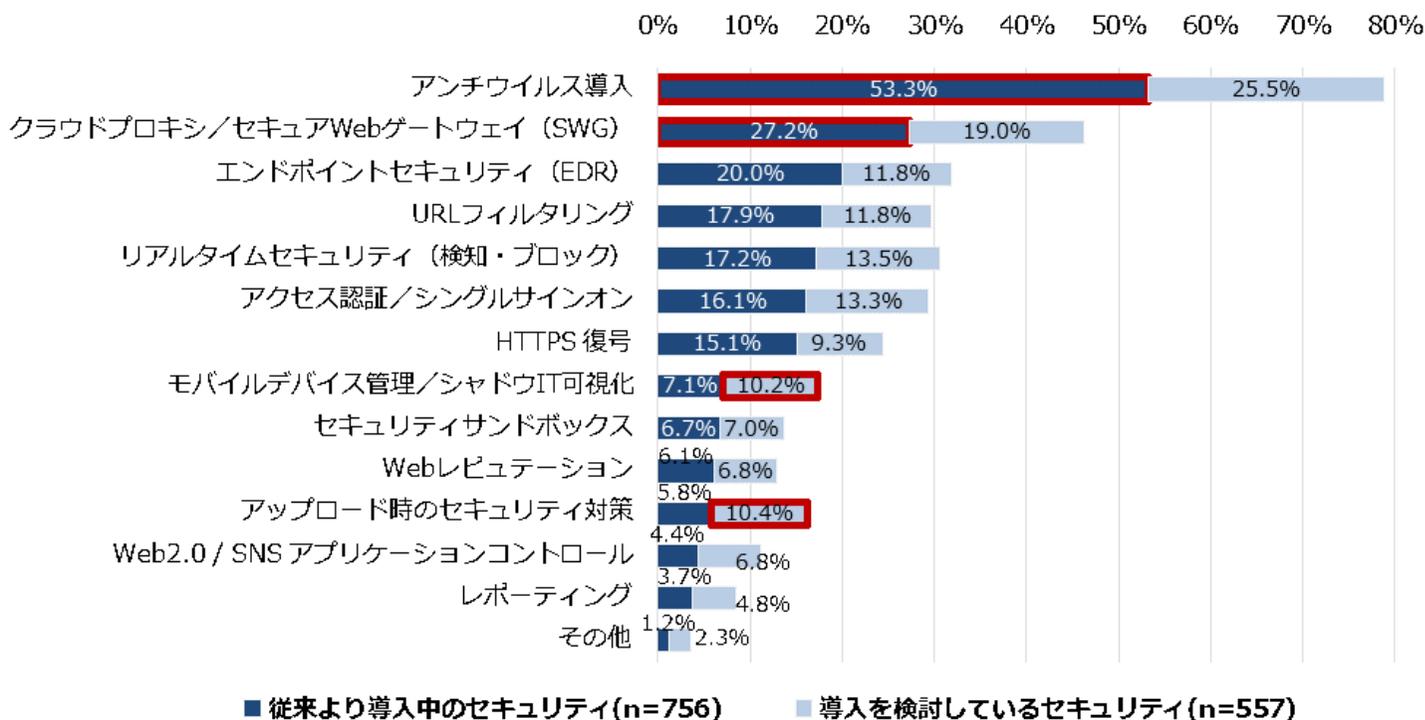
- PaaS/IaaSの運用・保守に関しては、約3分の2の企業が各システムの運用・保守業務の全部もしくは一部を外注している。
- 自社単独でPaaS/IaaSを運用するときの課題として多いものは、「ノウハウの不足」・「社内の運用・保守リソースの不足」・「障害発生時に相談できる相手がない」という結果。



# 主な調査結果（クラウドセキュリティ）

## 【クラウドサービスに関わるセキュリティ】

- クラウドサービスの利用拡大に伴い、約11%の企業がネットワークおよびセキュリティに対する支出額を10%以上増やしたと回答。
- クラウドサービスに関わる従来より導入中のセキュリティとして、53.3%の企業が「アンチウイルス導入」を、27.2%が「クラウドプロキシ/セキュアWebゲートウェイ（SWG）」を挙げている。
- 「導入を検討しているセキュリティ」では、これらの項目の比率が低下するのとは対照的に、リモートワークなどに対応するセキュリティ対策の比率が高まる。



## 【御見積】

### 1部 30万円（税別）

- ※ ホスティングサービスオプションを追加する場合には、**1部 35万円（税別）** となります。
- ※ 取得済みデータの範囲であれば、個別に調査項目を追加したレポートを納品できます。ご相談下さい。

## 【お申込み方法】

- 弊社のお問い合わせフォーム、もしくは代表電話から、本レポートの購入を希望される旨をお伝え下さい。担当者が対応致します。  
お問い合わせフォーム：<https://www.m2ri.jp/contact/>  
弊社代表電話：03-5777-0161
- 本レポートの購入を希望される旨を記載の上、以下のメールアドレスにお送り下さい。  
[kabuto@m2ri.jp](mailto:kabuto@m2ri.jp)（担当：加太）  
※ 担当者へメールされる場合には、次頁の「申込フォーム」を添付頂けると対応がスムーズです。

## 【納品について】

- 納品形式はPDF版（クラウドストレージ※より送付）と簡易製本版（郵送）の2点となります。
- 他の納品形式（PDFのみ、簡易製本のみ、その他媒体での納品など）をご希望の場合はご相談下さい。
- 送付用クラウドストレージは「どこでもキャビネット」となります。ドメイン（@dococab.jp）の迷惑メール振り分け設定を解除してください。
- 納品時期の目安は、購入確定からPDF版は申込日から翌営業日まで、簡易製本版は申込日から5営業日以内です。
- 納品時期を指定される場合にはご相談下さい。

# 申込フォーム

貴社名	
ご所属	
申込者のお名前	
購入希望のレポート (チェックしてください)	<input type="checkbox"/> 国内クラウドサービス需要動向調査 (2021年版) …1部30万円 (税別) <input type="checkbox"/> 国内クラウドサービス需要動向調査 (2021年版) ホスティングサービスに関する調査報告を含む…1部35万円 (税別) <input type="checkbox"/> 調査項目追加のご要望…応相談 (ご希望 : )
購入希望部数	部
納品形式 (チェックしてください)	<input type="checkbox"/> 通常 (PDF版+簡易製本版) <input type="checkbox"/> PDF版のみ <input type="checkbox"/> 簡易製本版のみ <input type="checkbox"/> その他 ( )
ご希望の郵送先 (簡易製本版)	〒 -
メールアドレス (PDF版)	
電話番号 (緊急時連絡先)	
御請求先の部署名	
御請求先の担当者名	
御請求書の郵送先	〒 -

## 弊社のご紹介



# MM総研とは

社名	株式会社 MM総研
設立	1996年6月
資本金	2,000万円
所在地	東京都港区芝公園2丁目6番3号 芝公園フロントタワー5F
代表者	代表取締役所長 関口 和一
事業内容	●マーケティング・リサーチ業務の実施
	●コンサルティング業務
	●月刊ICT情報誌「MM Report」発行
	●各種セミナー、展示会の実施

## 関口 和一（せきぐち わいち）略歴

### ●MM総研 代表取締役所長

1982年一橋大学法学部卒

日本経済新聞社入社、編集局流通経済部配属。

1988年フルブライト客員研究員として米ハーバード大学留学。1989年英文日経キャップ。1990年から1994年まで米ワシントン支局特派員。産業部電機担当キャップを経て1996年より2019年まで24年にわたり編集委員を務めた。

2000年から15年間は論説委員として主に情報通信分野の社説を執筆。

2006年より法政大学大学院客員教授、2008年より国際大学グローコム客員教授。2009-2012年はNHK国際放送のニュースコメンテーター。2012-2013年はBSジャパン『NIKKEI×BS Live 7PM』メインキャスター、2015-2019年は東京大学大学院の客員教授を務めた。

2019年（株）MM総研代表取締役所長に就任。日本経済新聞社でも引き続き客員編集委員として記事の取材や執筆、「世界デジタルサミット」など国際シンポジウムの企画・運営にあたる。

総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）評価専門調査会専門委員、情報通信研究機構（NICT）アドバイザリーコミッティ委員、JPCERT/CC事業評価委員会委員長なども務める。著書に『パソコン革命の旗手たち』（日本経済新聞社）、『情報探索術』（同）、共著に『未来を創る情報通信政策』（NTT 出版）、『日本の未来について話そう』（小学館）などがある。



# MM総研とは

- MM総研はICT分野を強みとした市場調査・コンサルティングサービスを提供するシンクタンク
- 情報収集力、情報発信力を活用し、お客様の事業を支援します



マーケティング・リサーチ



事業戦略  
コンサルティング



プロモーション支援



出版

- B2C, B2B隔たりなくICTに係る市場規模や出荷台数データを保有
- B2CではBB回線数、モバイル回線数、スマートフォン出荷台数、クラウドサービ、IoT、AIの市場規模などを網羅 B2Bでは

### 個人市場領域

- ブロードバンド/ISP市場
  - 四半期単位
  - 事業者シェア・競合分析と市場予測
- MNO/MVNO市場
  - 四半期単位
  - 事業者シェア・競合分析と市場予測
- スマートフォン/PC・タブレット市場
  - 四半期単位
  - 市場規模・台数シェア・需要予測

### 法人市場領域

- クラウド市場調査
  - 市場規模、プレイヤー整理
  - 認知率等トップオブマインドシェア
  - 事業者シェア・競合分析と市場予測
- IoT導入状況調査
  - 市場規模、導入状況
  - 市場ニーズ・ユースケース分析
- 人工知能市場規模
  - 市場規模
  - 市場分析(PEST分析)、提供価値 等



- 『MM Report』は、MM総研の独自調査など業界の最新情報をお伝えしている会員制月刊誌
- 市場規模データやスタートアップ情報、各種業界トレンドなどを掲載

- ◆誌名 : 「MM Report」
- ◆発刊日 : 毎月25日発行
- ◆発行部数 : 約500部

### 【主な購読企業】

- 大手ITベンダー
- 大手キャリア
- 大手ディーラー/販売店
- 外資系ベンダー
- 証券会社
- その他

### 【主なコンテンツ】

- データ **MM総研の研究員が独自に収集・分析したICT市場の最新市場データ／市場動向を掲載**
- 対談 **日本を代表する経営者と、所長の関口が対談を通じ、ICT業界の現状と将来を語ります**





## 表彰制度「MM総研大賞」

- ICT分野の発展を目指した表彰制度「MM総研大賞」
- ICT分野の市場、産業の発展を促すきっかけとなることを目的に、MM総研が2004年に創設した表彰制度2019年度が16回目の開催
- 優れたICT技術で積極的に新商品、新市場の開拓に取り組み、スマート社会の発展に貢献している企業を表彰

- 日本経済新聞など4紙の一面広告で受賞企業を発表



※授賞式を東京・港区 シェラトン都ホテルで開催（2020/9/17）





---

Moving **M**obile & **M**obility Forward